

出会い



第61号平成二十八年九月発行

健康道場サラ・シャンティ
神戸市灘区八幡町
3-6-19 クレール六甲 2F
T/F: 078-802-5120

日本の魂の文化の源泉

清水 正博

日本の魂の文化を象徴するお盆ですが、残念ながら私はお墓参りも行かず家庭でもその伝統行事が失われています。しかし全国的に国民的休暇として4.5日間のお盆休みがあり、お墓参りなどの習慣は生きています。このお盆休みに合わせるように広島、長崎の原爆投下、そして終戦記念日が集中したのは何故なのでしょう。それは日本民族の祈りの力が導きよせたのではないかと思つた私は、大祓い祝詞の 神集へに集へ給ひ、神議りに議り給ひて我が皇御孫命は豊葦原瑞穂国を安国と平けく知らしめせと事依さし奉りき」を思い出しました。この国民的祈りの力が凝縮して、「祖先様の霊を祈るお盆の時期に終戦記念日が来るように 神計らわれ、安国と平けく知らしめせ」と仕組まれたのでしょうか。

なにも現代に限つたことではなく、多くの方が言つてきたことですが、日本独自の人智では起り得ない神計らいが長い歴史の中で日本文明を生み出してきています。そんな日本神界の働きをひきだす偉大な知恵のひとつが大祓詞なのでしょう。私が大祓い祝詞を暗唱しようと思つたのは、201

1年の311頃、皇室で伯家神道の儀式がされなくなつた今、明治天皇崩御から100年目の7月30日までで大祓い祝詞を1000回唱え、できるだけ多くの人が暗唱すれば良いとの呼びかけがあつたからです。お蔭でその満願の日に、不思議なシンクロが多発しているのに気づき、その霊験あらたかな力を知つたわけです。

この7月31日の明治天皇崩御の日に玄孫の竹田恒泰さんの講演会に参加して名刺を交換し、翌年の9月には竹田さんと一緒に行く香岐の島への一泊旅行のチャンスが生まれ、これは滅多に味わえない贅沢な旅になりました。同じ31日に大江幸久さんが瀬織津姫を祀っている六甲ヒメ神社岩座を見つけ出し、ハリー山科さんが遠野で瀬織津姫を感得したのも同じ日、その頃に瀬織津姫の絵を描く北海道の田口陽子さんの事を奈良裕之さんに紹介され9月の個展が決まり、同じ頃に大下伸悦先生に出会つて言霊講座が決まり、と瀬織津姫パワーがあちこちで顕現したのです。

さて広島、長崎の原爆投下された間の8月8日に、天皇陛下は 象徴としてのお務めについてのおことば」を述べられました。それは8月15日の71回目の終戦記念日を迎えるお盆のタイミングでした。お盆は「祖先様の魂や戦死者の英霊を祀る厳肅な日が続く祈りの期間として、マスコミもこの時期だけは戦争の真実を報道する反戦平和番組の特集を組んでくれます。そして私は偶然1967年版(岡本喜八監督・三船敏郎)の映画 日本のおちばん長い日」を見てしまったのです。いや、見せられたのでしょうか。

玉音放送の録音盤が狙われた？終戦前日の14日、何が何でも徹底抗戦」を主張する若手将校たちが近衛歩兵連隊を率いて玉音放送を阻止するために近衛師団長を殺害し、師団命令を偽造して皇居を占拠し、昭和天皇を拉致しようとしていたという無茶苦茶なことが起こつていたとは。この映画は 終わらせ方が分からない無責任な政治家」と国民に代わり戦争に終止符を打つた勇氣ある「人の人間」として天皇を描いたということ、知らなかつたですね。

昨年この映画をリメイクした原田真人監督は 立憲君主制の中で自由もなく、まさに 耐えがたきを耐え」てきた昭和天皇が、「ここで戦争を止めないと日本という国がなくなるといふ思いで聖断を下すさま、苦悩を含めた 又間」としての昭和天皇・裕仁を描きたかつた」と語っている。まだ見ていませんが、原田版はすごい人気だそうです。

先日の矢作直樹先生の講座で語られたことですが、311の直後に天皇陛下が犠牲者に対して 詔勅をだされたことから、米軍が友達作戦を發動し福島原発事故の問題を解決しに来たといわれる。この事はアメリカと天皇との間の特別な関係について語られたようですが、その当たりのことは平民が知ることではないとも言われます。これは保江邦夫先生が語られた事とも関係しているのですが、一体どんな事情があるのでしょうか。これは日本と云う国が本当に偉大な使命を背負つた国であることを知つた裏の支配者達が、それを封印しようしてきたことと関係がありそうですが、今後それらが明らかになつて行くのでしょうか。

アメリカ、メキシコ、そしてインドにも3回行って、日本には世界中の宗教とは異次元の世界があると気付き、それを廻りながら祈る』の中で私の体験を通して日本神界の働きとして書きました。矢作先生も神道は宗教ではないと言われていますが、私も走りながら祈ることは、日常的な意識や行為が信仰と一つになっていると思っているからです。お天道様に祈るように、森羅万象に祈って来た日本人の信仰は、農耕民族であった日本人の自然観であり、日常性だと思っています。

神々の世界についてはいろんな風に語られる訳ですが、キリスト教のような一神教の教えをそろそろ整理し、日本人は優れた神仏習合精神や哲学に誇りを持って、世界に知らしめす必要があります。白隠の坐禅和讃、興禅大燈国師遺戒、般若心経には、神・民の一体や人には小宇宙意識がある。そんな宇宙意識につながる日本的信仰の優れた点を神話と共に子供の頃からずっと明確に教えて行くべきだと思います。子供の時から教えれば、明るい前向きな自然観をもつて育ち、歴史文化に誇りに持ち、知識偏重からの自殺、精神疾患なども克服する心を養えるでしょう。

昌原容成さんの講座 日本語は神である」から始まり、大下伸悦先生の言霊講座、吉野信子先生の「カタカムナ」、佐藤敏夫先生の「神の数学」と主宰してきたことで、言霊・数霊の文化が明確になり、ホツマツタエからみた日本神話を知ると、実在したご先祖様の体験談だったのでないかと思えます。死んだらみんな神様仏様になる国ですから神話があつて当然です。ですから日本の神々の名

前や働きを知っておけば、何か不思議な体験と繋がっていく、それが直観力を養い、何事か分からぬまま何ものかに導かれている事を知り、真理に導かれる、それが「日本語は神」であり、カンナガラ

の道を説く「言の葉」の国なのでしょう。
ちよつどこの心境に近いのが西行の句「なに」ことのおわしますか。知らねども かたじけなさに涙こぼるる」なのかもしれません。この句の人氣が高いのは、神様の存在は分からなくても、だれでも人は神秘体験を感じているという証なのです。これが日本神界が皇室と云う存在を生み出し、国体を維持して来た不思議な力であり、そんな国に生まれたこと、それを知ることが日本人の美意識や民度を高める一番の近道だと思つたのです。全国あちこちでセオリツヒメ現象が顕現している、ホント不思議な国なんですから。

昨年の終戦70周年記念日に時期を合わせたように安保法制反対運動が盛り上がり、若者の間から *sons* が生まれ、アメリカの占領政策である日本民族愚民化政策により日本はアメリカの属国になっていると若者たちが訴えました。選挙権も18才まで下げられ、政治意識が高まると思つたにも関わらず、参議院選挙の結果を見ると隸属意識は変わつてないことが分かり、情けなく思いました。

3分の2議席を得た安倍さんもこれで改憲論議が進むと思つた束の間、8月8日に『詔勅』があつた訳ですから、平和を求める心や大和魂に目覚める意識を広めよとの神計らしいのでしょうか。

この大切な日本再生の時に、サラ・シャントンが創業20年を迎え、日本を思う素晴らしい講師や愛国の同志が集う場所となり、全国でもかなり意識レベルの高い講座が注目されるようになり、わざわざ九州や北海道から来られる方もいて、ありがたいことだと思つた。4月には越智啓子先生の講座を芦屋神社で開催できて、吉野信子先生とのコラボが始まり、第3クルのカタカムナ講座が始まりましたが、保江先生や矢作先生、池田整治先生の講座が実現するなど、新たな次元への体制が整つて来ました。

4月10日は保江邦夫先生が来られ、7月の参議院選挙に「日本の心を大切に」党から立候補されるにいたる秘話を語られました。口外無用の衝撃的なお話も飛びだして面白い講演になりました。そこから7月の参議院選挙までサラ・シャントンは *tealbook* やメルマガで情報発信して応援したのですが、残念ながらお二人とも落選されました。でもお二人に政治家は似合わないと思つてましたので、良かったと思つた。それに落選のおかげで8月13日の矢作直樹先生の講演会はじっくりお話が聞け、素敵な集いになりました。

ここで講演会に参加された医師の横田直美先生のスゴイお話を。念0年以上も前のこと、気功家の中健次郎先生が中国留学中に「気功老師訪問の旅」を企画して下さいました。参加されていた矢作先生と私が何か会話しているところへ王先生と云う日本語が話せる老師が来られ、矢作先生をじつと見た後に「あなたは高い霊格を持っています。将来ご自分の考えを発表したり、書物を著したり

されるでしょう。」と予言されました。予言は的中したのです。天は死なない』の新聞広告を眼にしたとき戦慄が走りました。』とのこと。

さっそく中先生に聞いたら、王魁溥（北京気功学院教授、太極静功導師、中国気功科学研究会理事）という方で、戦前に京都大学に留学しておられたので日本語が堪能だそうです。1992年8月発行の気功マガジン「カルナ」83号に、王魁溥道家慧目功の神髄』の記事が紹介されています。この頃から中先生の気功の記事も掲載されるようになり、94年9月号に青山圭秀のサイババの霊物よりも私を求めなさい』が掲載され、サイババブームが起っています。

そして95年1月、青山圭秀の3部作を読み終えた直後に阪神大震災が起こり、サイババの神秘体験をさせられた私は、「体なぜ？」と長い間考えさせられました。目の前に起こった事ですから、信じる信じないもありません。知らない異国の聖人から突然一方的にプレゼントが届いて、エッ、なんでや」という感じでした。そのおかげでサラ・シャーンティが生まれ、不思議な気持ちで20年近くやって来た結果が今。

中先生、矢作先生、保江先生との縁も、この時の不思議体験の延長線上にあるわけで、私が本書を書く気になったのも矢作先生の『天は死なない』を読んだからで、私以上にぶっ飛んだ体験をされている保江先生や吉野信子先生のカタカムナの講座が実現しているのですから、サイババもアマテラスも瀬織津姫も同じ天上界の存在で同一神なのかと思ってしまうのです。

ギネスに載る世界最古の国「日本」。この秋によいよ日本の古代神代文字の文献が世界に紹介される一大イベントが開催されます。10月10日に、ヒカルランドから出版される大江幸久さんの新刊書『この国の乱れを整えるトノヲシテ瀬織津姫言霊リーディング』の出版記念講演会が決まりました。瀬織津姫様のメッセージが世間に広がるような著書なのです。さらに日本記者クラブで10月11日にはホツマツタエ再発見50年プロジェクト記念フォーラムが開催され、11月19日と20日には琵琶湖・高島市藤樹の里でホツマツタエ縄文の集いがあります。

悠久の歴史と風習を今に伝える我が国で、世界最古級の叙事詩写本』が発見されて本年は50年となる。漢字伝来以前の縄文古代文字で記された古文書は、やまとことば』の原型を化石のように顕す12万余字の奇跡の文書だった。ホツマツタエ』の名を持つ「真実の伝承」は、在野研究者、郷土史家たちの心血をそそぐ研究により、ようやくその全貌が明らかになりつつある。だが、文明史の常識を覆す記述の数々は、途方もなく深く、深く、そして美しい。

北一策先生は今回より本名「志波秀宇」で、三書房から『マンガ★漫画★MANGA（日本の漫画はなぜ世界一なのか）』を出版されました。サラ・シャーンティでの講演の内容が著書になりました。DVDがありますのでご希望の方は「注文下さい。次回北一策先生の4度目の講演は10月23日（日）、題して「世界情勢の怪説と世界最古の秘密結社の秘密」です。北先生の著書に『運磨文書』が

ありますが、この方面の研究をして来られた世界の秘密結社についての興味深いお話です。

8月7日から始まった池田整治先生の池田塾は「滅びの道」から「永久の道」と題しての5回連続講座。年末までの毎月第一日曜日は池田先生と共に日本や世界の問題を総論としていきたいと思いますので、興味のある方は「参加ください。池田先生は日頃から五井野博士、呉善花、菅家一比古、竹田恒泰、B・フルフォードさんとお付き合いがありますので、日頃聞けない貴重な情報をお持ちなのが魅力です。トルコ、イラン、イスラエルがロシアに接近し、アメリカの威信は地に落ち、中国経済も世界の金融市場も崩壊をいわれますが、世界はどのような方向に展開していくのでしょうか。

現在のアメリカではトランプ氏が、自国のして来た残虐な歴史を知らんふりしてアメリカとメキシコの国境に万里の長城を建てる！「イスラム教徒は、アメリカに入れるな！」日本から米軍を撤退させる！「日本の核保有を認める！」朝鮮戦争が起こってもアメリカは関与らない！」日本は、もっと金を出せ！」アメリカは、世界中から搾取されている、哀れな国」、NATOが、日本が、韓国がアメリカ力を搾取し……なんて滅茶苦茶な事を言っています。

こんな人が共和党の大統領候補になると言う事は、独立以来240年の歴史しかないアメリカという国の歴史の浅さ、文化程度を証明しています。これまでの大統領も独善的な正義をタテに戦争ばかりする人でしたが、彼はアメリカの恥部を暴

露するお役目を演じているのかもしれませんが。こんなアメリカの混乱状態は、金融支配層の世界戦略崩壊から起こっていると云われていますが、911のように自国民を騙して来たツケが来たのですから因果応報。そんな国を信じて隷属して来た自民政権が、11月大統領選挙の結果、どんな対応をするか楽しみです。

欧米の植民地支配で破壊されたアフリカ、中南米諸国のことはご存知でしょう。政治は腐敗し民度は低く、犯罪が多発するなど大変な負の遺産を背負われました。ぼくは1年半のメキシコ、アメリカの留学で、その実態をつぶさに見て、若くして世界の現実を知ることができました。おかげで日本の歴史に誇りを持つ事が出来、古武道を始めたいと思っただけですが、ありがたい事に、住んでいたスグ近くに新しい古武道の道場が開かれ、そこで神道夢想流杖道の松田師範に出会えたお蔭で、今のぼくがあり、サラ・シャンティへと繋がってしまったのですから、なぜなぜの世界ですよ。

自衛隊で鍛えた池田先生は武道家として超一流ですから、連続講座をお願いした時に、最初に30分ほど空手の極意の指導をお願いしました。情報ばかりの頭でつちかちで終わらず、空手を通して得た生きる力の真髓を気迫で伝えていただく時間をもちたかったのです。この開講の時期にオリンピックとお盆が重なったのも偶然ではなく、死ぬ気で体を鍛える選手たちの姿「を見せるための神計らいだっただけでしょう。日本の武道精神の復活せよとのご神託であり、神武」とは、神から授かった「武」であり「生(ぶ)＝生みだす」意があり、

この時代を生き抜くには柔らかな精神では持たないぞ、とのご神託が降ろされた国なのですから。

神道夢想流杖道の創始者・夢想権之助は、天真正伝香取神道流だけでなく鹿島神流の「の太刀」の極意も授かったと伝えられ、慶長年間の頃に江戸へ出て著名な剣客と数多くの試合をしたが、一度も敗れたことがなかった。しかし宮本武蔵と戦いで初めて敗れたことから筑前宝満山に参籠し37日目に、夢の中に童子が現れ「死木をもって水月を知れ」という神託を得たとされています。御神託をもとに、工夫を重ね、ついに四尺二寸一分、径八分の檜の木で、槍、薙刀、大刀の3つ性質を統合した杖術を編み出し、神道夢想流が創設されたという神様から授かった武道なのです。

夢想権之助の言葉「我が国においては剣術のみが武術である」との考えが主流になっている。しかし、人を殺さぬことを真理とする杖こそが武術の大本となるべきである。その昔、天地開闢のとき、イザナギ、イザナミの尊が「天の矛」をもって大海原をかきまぜ、この大八州(日本国)を創られた。この「天の矛」こそが杖であり神国日本の武を代表するものである。日の神である天照大神も三剣を帯し武をたいへん尊ばれた。仁、義、礼、智、信を守ることのみでは国を治めることは出来ない。武も必要であり武をもって国を治めるには、術が必要である」があります。

武道にはこうした継承していかなければならない云われがあり、保江先生も大東流合気柔術から独自の合気の世界を切り開かれて、伝えようとき

れています。こんな私が伝えて行きたい思いは、超人的な矢作先生、中先生とも繋がって、そこに自衛隊で鍛えた空手家である池田整治先生が関西に引越して来られ、武士道精神を伝える塾が開講したのも、神計らいなのでしょう。今回の「田会い61号」も素晴らしい活躍をされている方々にお願ひし、大変貴重な内容の文章が集まりましたので、じっくり読んで頂きたいです。

次の4つの文章は

- ①被災地・熊本での無料サポートレンタカーの報告は石巻在住の吉澤武彦さんから。
- ②大飯原発のおおい町出身、徳庄博美さんの麗しの国・若狭よりのお便り26
- ③毎夏明石と神戸で開催の福島の子供たちの保養キャンプのレポートは小野洋さんから。
- ④4月22日に長崎を出発、7月4日に東京にゴールし、レインボーウォークを終えた「Generations Walk」代表 山田圓尚さんからのレポート

熊本での無料サポート・レンタカーご報告

一般社団法人日本カーシェアリング協会

吉澤武彦

過去何度かこの会報誌で報告させていただいているのでご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちは東日本大震災後全国から車の寄付を集め、それらを活用して、宮城県石巻市で車を被災された方々を中心にカーシェアリングによるサポートを行っています。4月に起こった熊本地震

での取り組みについて今回「ご報告させていただき
ます。

本震の2日後の4月18日、熊本で被災された
方から私達の石巻の事務所へ1本の電話がありま
した。車を貸してほしいと。

その方は、地震の前は車を持って



pixta.jp - 6563749

いなかったそうなのですが、避難
生活になると、避難するために

移動するにも、避難場所まで生活するにも車が必要
で、ただ、レンタカー等で車を借りようと思っても
1日5,000円とかかかってそんな余裕は自分には
なくて、小さな子供を抱えて、どうしようか途
方にくれながら、インターネットで検索して、私た
ちの取り組みを知り、無理だろうと思いがらも
藁をもすがる思いで電話した、とのことでした。

私たちも今回の地震で被災された方々のため
に、車を使ったサポートをどういう形で行なうか、
考え続けていて、そのことをそのまま伝え、何と
か、貸し出せるようにしたいが、遠距離のため、こ
ちらから車を持っていくのは難しい。ただ、なんと
か九州の中で車を調達したり、管理できる方法を
見つけることができるようにしたいと思っている」
とお伝えすると、ありがとうございます。なんだ
かほっとしました」と電話越しで涙を流されていら
っしゃいました。

石巻での取り組みも、とても大事な局面を迎え
ておりなかなか離れられない状況にあるのですが、
私たちにできることをできるだけやろうと思いま
した。

関東・東北豪雨の際は、同じ宮城県古川地区
には翌日から、茨城県の常総市には約2週間後に
体制を整え石巻から車を届け急場をしのぐため
の車の貸し出しを行いました。

今回は、石巻からはるかに離れた九州が現場な
ため、車を運ぶことはあまりにも大変で、色々と
検討した結果、熊本の近隣県で車を集め、一斉に
届けるということに挑戦してみました。

果たしてそのやり方でできるかどうか、そんな
不安も正直ありましたが、とりあえず呼びかけを
始めた翌日、鹿児島県の車屋さんから車両提供の申
し出をいただきました。

早速、九州入りし、最初にお電話いただいた方
に車を届けることができました。その方は、涙な
がら喜んでくださり、貸し出すための書類を書
いてもらっている時、すいません、ほっとしすぎてペ
ンが握れなくて：「そんな姿を見ながら、被災さ
れた方々にとって車がないという状況がいかに精
神的に窮地に立たされるかということを私は改め
て実感しました。

私たちは、その足で、熊本の周辺の県へ周り、地
元の新聞社や記者クラブに声をかけながら、車の
募集を本格的に行いました。車は続々と集まり、
私たちがその車を3カ月間無料という形で車の貸
し出しを行いました。その間の保険料や車の修理
代等、寄付や助成金などを集めて何とかやりきっ
ているところです。

4カ月が経った今、車は38台集り、貸し出し枚
数は40件を超えました。車を提供してくださっ

た方の中には、石巻で被災し、再建した車屋 阿部
勝自動車さん」もありました。自分たちが被災し
た時、九州の方々にも応援していただいたので恩
返ししたいと、10台の車を提供してください石
巻から陸送車で運んでくださいました。

私たちは、1人現地スタッフを常駐でおき、車の
貸し出し、貸し出し車両のメンテナンス、車両提供
の受け入れ等行っています。ここにきて、私達の取
り組みが口コミなどで広がり、利用希望者が後を
絶たず、現在10名以上の方々にお待ちいただい
ている状況です。お話を伺うと、ずっと困った状態
のまま今まで過ごされていたようで、必要な方に
必要な情報を届け切るのは難しいなあと改めて思
うところです。

今、熊本でも仮設住宅ができて、避難所からの
引越しが行われ、提供いただいた軽トラからが大
活躍しています。これから仮設住宅でのカーシェア
リングなど現場でのニーズを確認しながら、私
たちが石巻で培ってきたノウハウを熊本の現場で
も活かしながら取り組みを続けていけたらと思っ
ています。応援よろしくお願いします。

《 軽自動車の募集 》

熊本支援で活用させていただける車を募集して
おります。条件：軽自動車 ※登録が簡単で、女
性や年配の方の足としてスムーズに活用できるた
め。九州内で車を受け取れる方(車を運搬いただ
ける方)

※運搬の際は、運搬費用についてもご負担いただ
ける方(高速道路無料通行証を使用できる間は使
用いただけます。)

・車検が3カ月以上残っている車両
・車の活用に関しては、こちらに一任いただける方
備考：事前に名義変更を行ったうえで、活用させていただきます。

お問い合わせ：日本カーシェアリング協会

メール teikyoku@japan-csa.org 0225-22-1453

寄付の募集 取り組みを円滑に行うための寄付を募集しております。

ゆうちょ銀行：記号：02220-9 番号：120559

(店名：二二九 店番：229 当座：0120559)

口座名：一般社団法人日本カーシェアリング協会

私が代表を務める、OPEN JAPANでは、南阿蘇にあるキャンプ場でテント村形式でベースを構え、様々な支援団体と連携しながら現場での支援活動を行っています。もし、関心を持っていただけるようでしたらぜひそちらの方もホームページやFacebookをのぞいていただき、随時更新している現場の様子をご覧になっていただければと思います。
<http://openjapan.net/>
<https://www.facebook.com/hirakenippon/>

麗しの国・若狭より 26

おおい未来ツアー2016報告

徳庄 博美

私たちはo.o.iみらい塾は15年に31kwの「若狭つながり市民ソーラー共同発電所」を設置し、予想を20%超える発電量で順調に稼働して売電を行っています。この市民発電所は関西方面始め都市部の多くの市民の方からの出資金・協力で設置することができました。

私たちは協力していただいた都市部の方々とのつながりをより深めたいと思います。今年4月29日〜30日におこなったエコツアーは昨年に続く2回目です。21名の参加がありました。

私たちの目的のひとつはおおい町の山と海の自然を心ゆくまで味わってもらいたいということがありました。そのひとつはおおい町の県境にある五波峠のブナ林です。ここは日本ブナ林100選に選ばれています。針葉樹の杉林からブナの森に入ると一気に景観と空気がかわります。ここが安らぎ、広がっていくのを感じます。



またブナの木肌が目に和らぎをもたらしてくれます。あいにくの雨模様だったので、尾根筋の五波峠まで車で向かいました。短時間の滞在しかできませんでしたが、新緑の若芽が森一面に吹き出し、息をのむ美しさに参加者の方は感動の様子でした。

翌朝は打って変わった快晴で、大島半島の尖端にある赤礁（あかぐり）への早朝散歩を行いました。赤礁（あかぐり）は橋でつながれた小島ですが、その岩が大変珍しい赤色をしています。そのためこの名前がつけました。ここは私の感覚ではエネルギーの強いパワースポットなのです。

島には弁財天のほこらが祀られています。その赤礁（あかぐり）をとりまく岸辺の海は白砂に透명한海水で、宮古島やハワイのハナウマ湾を思い出させる美しさです。参加者の皆さんは透き通った海と、赤礁（あかぐり）赤い岩の景観に歓声をあげていました。海水に足を浸す人、貝殻を集める人思い思いに時間を過ごしてもらいました。

そのあとクルーズ船で大島半島の周遊を行いました。美しい赤礁（あかぐり）岬を超えて外洋に出ると大島半島にある大飯原子力発電所が見えてきます。美しい自然中に急に高圧電線の巨大鉄塔、丸い屋根と四角い建物の巨大な人工建造物、原子力発電が現れてくるのです。原発は福井地裁の稼働停止の判決により現在休止中です。しかしツアー参加者の中には気分が悪くなった、半島の山に突き刺さっている高圧電線の鉄塔にこころが痛くなったという声を聞きました。

このツアーの目的のうち一つは参加者と地域の人々との交流でした。お二人の方にきていただき、話を聞かせてもらいました。

お一人は大島半島で民宿を営み、自らも原子力発電所で働いてこられた方です。この方は311後、個人的に自費で3回も福島を訪れて炉心熔融事故と放射能汚染について地元の人々に聞き取りを重ねられてきました。その他意見を踏まえて、おおい町の議員にも是非福島を訪れて今後のおおい町のことを考えるべきだと訴えられてきた方です。

大島半島の原発建設から現在までの歴史を身を以て体験されてきました。大島地区の人々は原発建設で漁協の漁業権を売り渡し、その金で民宿を営み、原発で働く労働者のために宿舍を提供している家が多く、地区は原発に大きく依存しているということでした。その中でも一度、漁業や観光で生活を立てるといふ道を探っている人は極めて少ないという事でした。

人一倍原発の危険性を感じながら、しかも原発に頼らなくては生活が出来ていけない集落の実態をみての苦渋がにじみ出ていました。原発からはいる現金の力の大きさに無力感を感じていると言ったことでした。聞いているものが言葉を失う原発立地地元の話でした。

もう一人の方は夢工房という主婦の特産品を作る会社の代表をしている方です。この会社で作る無添加味噌、炊き込みご飯の本、梅干し、梅ジャム、梅肉エキス、クッキーはその品質とおいしさに定評があり、関西方面でも人気が生まれています。その心意気を話してもらいました。「私たちは地元の主婦で創っているグループであり、安心・安全の完全な手作りにこだわっています。自分の家族に食べさせる思いで、商品も作っています。一切の添加物を避け、地元の農産物で製造しています。たとえば梅は普通は何度も消毒しないと病気になるかかります。

しかし私たちのところは少し黒点がありますが、消毒は1回だけにとどめ、すべて完熟梅を使っています。梅肉エキスも全く混ぜものはつかわ

ず、長時間かけてひたすらかき混ぜながら練り上げていきます。食してもらったかたからいろいろの病気が治ったという喜びの手紙をもらっています。私達は仲間同士のつながりを大切にしています。

毎日仲間があつまって仕事をすることが楽しくてそのことが私達が長くつづいている理由だと思えます。この方はエネルギーの塊のような、肝っ玉おつかさんと、旦那とのなれそめもはさみながら皆を笑わし、あっという間に時間が過ぎてしまいました。参加者はそのバイタリティと生活哲学に感動していました。

ツアー後皆さんからの感想を頂きました。「原発反対だけでなく何か希望を持って構築していく活動が必要だと感じているので。」「みらい塾の活動に賛同します。」「地域内外でファンを増やしながらみらいを拓いていらつしやる様子がとても新鮮でたのしいです」などこのツアーが良かったという多くの声を頂きました。私達自身も故郷についての多くの再発見があり励まされました。ツアー最後のシェアの場でスタッフの一人は赤礁の美しさを思い出しこんな美しい場所があったのだと涙ぐんでいました。

故郷には原発依存の流れが大きくあるのも事実ですが、一方自立へ向けた動きもあります。夢工房さんだけでなく確実に自立への道の模索も始まっているのを感じます。海の観光で生きていこうとしている人も皆無ではありません。私たちが宿泊した民宿の若夫婦は、原発で働く

労働者ではなく、釣り客を主なお客さんにした経営をしています。

いつも筏へ釣り客を案内しています。大島の漁師の主婦の方々も体験観光用のじゃこ天づくりのコースをつくっています。早速私達もじゃこ天をつくらせてもらい、熱々のじゃこ天の味を楽しみました。

この他にも森や川での子どもたちの遊びをもういちど復活させ、観光資源としていきたいと取り組みをすすめているNPO、日本でただひとつ残った研磨炭の生産を行っている匠の技を持つ木炭生産者の方、雑草とともに野菜をそだてる自然農をすすめている方、果樹栽培のハウス農業を本格的に行おうとしている方、いろいろな方が存在しています。私が今年より始めた複合発酵法による米作りも順調に進みつつあります。

おおい町や隣の高浜町は一方には大きな原子力発電所が有りますが、同時にもう一方には豊かな自然も、自立した生活をめざす人々というかけがいのない地域資源もあります。

また近代日本の禅文化を世界に広める土台作りを行った儀山和尚、釈宗演和尚を始め何人も禅師を産みだしてきた精神的・文化的伝統もあります。今ここの若狭に未来の芽が宿っているのを感じます。やがて全ての命が健やかに生きていける未来が開けていくのを信じています。

***今年是小水力発電の可能生を探っていきます。**

6回目の保養キャンプを終えて 福島の子どもを招きたい！ 明石プロジェクト（たご焼きキャンプ）

小野 洋

7月28日から8月8日までの11泊12日間、今年で6回目となる、福島の子どもを招いての保養、「たご焼きキャンプ」を、神戸市須磨区と姫路市で行いました。

参加したのは、福島県内に住む小学校1年から6年までの計21名の子供たち。親元を離れての12日間、海水浴、川遊び、虫取り、プールや屋外でのスポーツ、自分たちも企画に参加する夏祭り

など、屋外でも屋内でも思いっきり遊び、中身の詰まった日々を過ごしました。最終日、長期間のキャンプに不安を感じていた初参加の子の親も、うれしそうな顔で郡山駅に迎えにきました。



参加した子どもたちからは、福島ではなかなかできない海や川での自然体験ができた「こんなにたくさん虫を捕まえたのは初めて」「生まれて初めて海に入った」などの感想が聞かれました。また、長期のキャンプのため、子どもたち同士のトラブルや思わぬアクシデントもたくさんあるのですが、けんかしていた子ども同士が仲良くなり、一緒に遊ぶなどのほほえましい光景もあちこちに見られました。

保養の本来の目的ではないかもしれませんが、子どもたちただけの中で様々な経験をすること、子どもたちの成長の糧になるように、親からも子どもが成長して帰ってきた」と喜ばれることが

あります。子どもたちは、自分で身の回りのことをしなければいけない以外に、夕食づくりの当番があり、エプロン姿で調理をするなど、生活の体験もしています。

ボランティアとして毎年多くの大学生が参加しますが、子どもたちと仲良くなるため、別れを惜しんで泣き出す子どもと学生の姿もありました。原発や福島について知識がなくても、こうした経験が若い人たちの心に残り、関心を持ち続けてくれるのではないかと期待しています。

多くの方が子どもたちの服の洗濯や食事づくりなどをボランティアで手伝ってください、また多くの団体、個人の方が、食料品などの提供で協力してくださっています。キャンプの資金も、最近になって助成金を取ることができるようになりましたが、基本のお金は多くの方の寄付によって賄われています。（※キャンプの様子は、たご焼きキャンプブログ <http://takocamp.exblog.jp/> に詳しく掲載されています。）

保養キャンプは、2011年の原発事故発生以来、全国各地で行われており、関西でも二十を超える団体があります。（※関西の保養の団体については、<http://hoyoukansai.net/> を参照）また、保養

300を超える団体が存在し、それによれば、全国で人が保養に出ていると推測されています。（※昨年行われた保養についての全国調査の結果については、リフレッシュサポートのフェイスブックに掲載）

<https://ja-jp.facebook.com/refreshsupporthoyou/>
全国調査の結果からもわかる通り、福島をはじめとした原発事故被災地では、まだまだ保養に対するニーズは高く、それに対して日本では、チェルノブイリの場合のような保養の公的な制度が整備されておらず、民間の市民団体が頑張っている状況です。

関西では、福島の原発事故は遠い過去のように思われがちですが、事故処理は遅々とした歩みで、汚染された大地の多くがいまだに高い放射線量のままです。故郷に帰ることができず、仮設住宅で暮らしている方がたくさんいます。もちろん学校の校庭や公園、住宅地などでは除染が進み、商業施設などの室内ではほとんど被ばくの心配がなくなっているのも事実ですが、子どもが本来思いっきり遊べる場所である野原や山、海や川などは、そもそも除染が難しく、自然と接する機会が奪われている状況は変わっていません。また、除染で線量が下がったと言っても、事故前に比べれば高い数値であり、あちこちに放射性セシウムがばらまかれていて、風の強い日にはそれがいくらかは大気中を舞っているのも事実です。

あるお母さんから、自宅の除染はしてもらったが、汚染された土の入ったフレコンバッグの行き先が決まらず、庭の、しかも窓のすぐ近くに積み上げられたままになっている、果たして安全になったかどうかかわからない、という声も聞きました。福島県内では、行先の決まらない汚染土の仮置き場が多数あり、黒いフレコンバッグが広大な敷地に積み上げられている光景があちこちで見られます。

こうした環境の中で子どもを育てることを思えば、親の不安やストレスは、相当なものであることが推測できます。事故直後の被ばくが原因だろうと思われる甲状腺がんの発症・疑いのある子どもが170名を超えました。いろいろな科学的な意見はあるようですが、子どもなら100万人に一人かかるかどうかという病気であるにも関わらず、です。

福島の復興の妨げになると思われてしまうのか、もう保養は必要ない、子どもは外で遊べる、という声も聞かれ始めたそうです。しかし、現地の保養相談会には毎回多数参加があり、最近では事故後に生まれた小さいお子さんを連れて保養を探しに来る若い親の姿も見られます。たこ焼きキャンプも、毎年3〜5割ほど参加者が入れ替わるのですが、その大半が一度も長期の保養に参加したことがない子どもです。

今年の参加者の半数以上が3年生以下の子どもでした。普通感覚で言えば、12日間ものキャンプに年齢の低い子どもを親の付き添いなしで参加させることには無理があります。それでも、できるだけ放射能から離したい、福島でできない自然を体験してきてほしい、という気持ちから、思い切つて子どもを送り出しているのだと思います。福島はもう大丈夫」という声に反して、ほとんどの福島の親が、なにかの不安を感じていると推測しています。

そうしたことから考えれば、全国で取り組まれ

ている保養キャンプの存在は、本当に貴重です。(有害な量かどうかの判断は分かれるとしても)体内に蓄積した放射性セシウムを排出することができ、何よりも得難い自然体験をして、思いっきり心身のリフレッシュをすることができます。チェルノブイリ原発後の保養でも、保養に参加している子どもが健康に過ごすことが多いという調査結果があると聞いたことがあります。

そうした保養キャンプですが、全国調査の結果にも書かれているように、実施している団体の苦勞はたいへんなものがあります。大きな課題として挙げられているのが、資金と人材の問題で、これは私の団体にも当てはまります。資金は、これまではなんとかなってききましたが、一回の保養を実施するために多額の費用が必要で、油断すればすぐ資金が底をつきます。

また、団体の活動の中心を担っているスタッフの負担は、本当に大変なものです。北陸のある団体ですが、保養の運営を担っていたある一人の女性が子育てのために関わることができなくなり、毎年夏に20名の受け入れをしていた保養を中止せざるを得なくなったそうです。

たこ焼きキャンプも例外ではなく、今年、子どもの世話の中心を担うスタッフの不足のため、これまで300名だった定員を20名まで減らし、日数をさらに一日減らしての実施になりました。子どもを参加させている親からは「まだまだ紹介したい子ども、参加させたいと言っている親がいる」と言われ、本当に悔しい思いをしましたが、子どものいのちを長期間預かることのリスクとスタッフへ

の過大な負担を考え、断腸の思いで規模の縮小を決断しました。

その他、期間中にも思わぬアクシデントが多発、本当に困難が多かったのですが、こうやって終えてみると、参加した子どもたちの生き生きとした姿うれしそうな笑顔が目に見えます。今年は特に、子どもたちから直接感謝の言葉が聞くことができたり、言葉でなくてもスタッフに対するお礼の気持ちを感じられるような出来事があつたりして、今思い出しても胸が暖かくなります。

この子たちが、健康に育ち、真の意味での福島の復興の担い手になってくれること、そしてできれば、この子たちの中から次の世代の保養キャンプの担い手が現れてくれることを願って、たこ焼きキャンプを続けていきたいと思っています。

7 Generations Walk

代表 山田 尚



私たちは「選挙に行こう」の旗を掲げ、4月22日に長崎を出発し、ゴールするまで重さ20キロくらいの荷物を背負つて2カ月半で約1400キロを歩きました。ウオークが終わり、神戸に戻つて来て、自然農の田圃の世話をしています。稲さん今年はめつちや元気です。世間の喧騒など、まったく気にせず順調に自然の理と共に成長しています。流石です。自然農の田圃にいると元気になります。

今回の選挙をきっかけに、人間社会が持続可能で愛ある方向に向かって行くひとつの力になればと思ひ、母なる地球の愛をシェアする為に歩きました。準備期間も含め、自分達の出来ることは選挙にいたるそのプロセスにあると感じ、手から手へ、愛をもって選挙に行こう！のメッセージをチラシにまとめて手渡したり、心から心へ、交流会や路上で沢山の対話やライブをしてきました。今は時代の変わり目。このようなメッセージは自然に人間社会に広がっていくだろうとも感じていました。その愛の酵母の働きの一部になると、自分達に出来ることを精一杯してみました。

皆のお陰で無事に歩きまることができ、今までで一番力に溢れてゴールすることができました。ある意味肉体に起こったこの現象が、この活動が自然の理にそったものだったことを僕たちに示してくれています。きっと愛の酵母はあちこちで確実に働いていると思います。

私たちは仏教やネイティブの智慧を駆使して、精神と肉体のバランスを取り、自然と調和していれば、無限の力が自然と湧いて来て、疲れることもなく、愛と命の力に溢れることが出来ます。そんな力に溢れていると、なんだか分かち合いたくなります。そんな感じで分かち合いたい人が増えて繋がっていくことが社会を愛で変えることであり、愛の発酵革命を起すことだと思っております。無限の愛の循環の一部であり、その力を体現し、分かち合うこと。私たちはそれを歩くこということで示してみましたし、そんな愛をいろんな形で体現している方々に今回も歩きながら沢山会

うことができました。

そして、メッセージを普段よりも少し広くシェアする為に、路上やあちこちで活動しましたが、やはり現状の厳しさもリアルに感じてきました。Votewith Love(愛をもって選挙に行こう)のメッセージにどれ位の人が共感して頷いてくれただろうか？ 社会の現実には利権の為に選挙に行く人が圧倒的に多かったり、選挙になどははじめから興味のない人もけっこういるのが事実です。

日本国民の大多数が世界は愛で出来ている！って思っていたらなんて素晴らしいのになーと思うこともありました。それでもって、道行く人から見れば僕たちは確かに変わり者だということも痛感していました。風貌も異様です。現代において、長崎から東京まで歩いて行くなんてあまり思いつく人も、実行する人もいないですね。しかも喜んで力に溢れて歩き続けている。もはや理解不能の域ですかね？ 私達は現代社会では非常識であること、それも分かっています。

でも、稲が育つ姿と自分の姿を重ねて見つめたらどうでしょうか？ 稲は土と水と太陽と空気の力を繋げて、循環の中で無限に成長していくことができます。だから、人や他の生き物にもその恵みを惜しみなく分かち合ってなお、稲は栄えていきます。人も自然の一部であることは同じ、本来、自然の一部であることにはどんな状況でも変わりなく、そのことと人の意識と肉体がどう繋がっているか？ が、本来の生命としての人として生きられるか？ そうでないか？ 人間の社会が持続可

能な自然のようになっていくか？ なっていかないか？ の選択を直接的に左右するのだと思います。

確かに、今の私は現代社会の中では変わり者です。でも自然界ではいたってノーマル。普通存在だと感じています。かつて、聖人と言われる方々も皆最初は変わり者だったし、アーティストの世界でも印象派の人達とか、有名な音楽家の多くもかつては皆変わり者です。自然農の福岡さんも川口さんも最初は変わり者でマイナーだった。でも、それがあるとき表現力や理解力や体現力が臨界点をこえて洗練された時、変わり者だったものが珍しいものに変わり、貴重なものに変わり、やがて世界に浸透していく。

今回、長崎から東京まで歩いてみて、確かに今までに比べ、多くの仲間たちと深く繋がりが、愛も分かち合えた素晴らしいウオークになりました。それはホントに嬉しいことだったし、これからもこの道を進んでいきたいと思っています。

でも、それが社会の中で臨界点をこえて広がっているほどのものだったろうか？ と考えると、それは、どうかな？ まだなのかな？ と思うこともあります。確かに、東京の三宅洋平さんの選挙フェスはおもしろかったです！ 議員さんになったら力強いと思ひますし、メッセージのひろがり方も素晴らしいなと思ひました。

ウオークで出会ってきた、神奈川や名古屋の女性達も素晴らしいし、神戸の皆も真剣に未来について考え繋がりを深めています。福岡や国東の皆

の文化度も高く、長崎や広島にも深い祈りがあり、岡山にも確実なピースムーブメントがあります。もちろんその他にもいろんな所に素晴らしい愛の酵母のような人の繋がりが広がっています。今までブログなどでも色々シェアさせていただいてきました。

今回の選挙をきっかけにそのメッセージは広がり、その思いは愛の酵母のように皆の心に浸透したのではないかと思います。これから、大切なはその酵母をどう保ち育て分かち合い、その繋がりを社会を愛で変える臨界点までもつていって、世界を愛で変えるか？ですね。ガンジーの革命はインド国民7%の支持者の協力で成しえたと言われています。

この社会を愛で変えていくムーブメントは自然の理にそったものであると確信していますが、かつて、世間では変わり者とされてきた本物たちも、自然の理にそっていたからこそ、世間の批判などはあまり関係なく持続可能で、その意義を全うされていったのだと思うのです。まずは臨界点まで頑張りましょう！そこまで歩み続けましょう！

非暴力非服従はガンジーが真理を政治の世界で実践したのですが、日本国憲法もそれに匹敵するくらい素晴らしいものと感じています。この平和憲法を深く学び直し、戦争を放棄して平和外交で国を守る方向性の政策をより進めていく為に、私たちはより真摯に活動をしていかなければならないと思います。

憲法前文には 平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」とあります。先ず、私達が世界を平和にするような愛を理解し実践することが平和憲法の理念を実践していく上でとても重要なことですね。そこが今までの日本の政治に決定的にかけてきたところですし、これからは、そこが私達「愛の酵母」の役割になっていくと思うのです。

庶民の側に立つ人達が議席を増やすことを心から祈っています。しかし、今回の選挙の結果で、改選力がほぼ3分の2になり、改憲が発議されて、国民投票になる可能性もあります。その時と同じように私たちは平和憲法の精神を学び直し、ただ、憲法を守るだけでなく、その平和の精神を如何に実践していくか？までクリアーにした上で、国民投票にのぞまなければなりません。

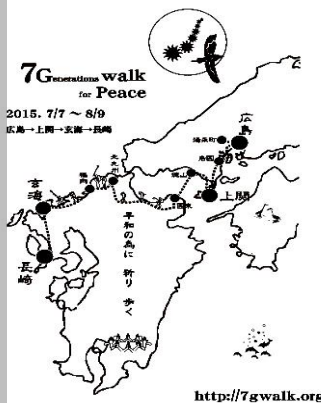
今回のウオークでも、政治にからむムーブメントをしてるのであれば、普段から政治を意識してどれくらい活動できているか？が問題なのだと思います。多くのメディアは残念ながら庶民の味方でないことは明らかです。大手メディアがあまり期待できない分、自分たちの草の根運動は確実ながらも、浸透のスピードは早くないので、もう今からでも、その動きを始めなければなりません。

今後、状況はかなり厳しくなることは分かります。でも、どんな状況になっても私は諦めません。ホントに世界を愛で変えていくのであれば、選挙期間中はもちろん、選挙の後の普段の生活でこそ、政治に私たち一人一人がさらに深く関わって行か

なければならぬことは明らかですし、選挙だけが政治でもありません。今回の選挙は、関わった皆にとつて政治というものに普段から愛をもってさらにリアルに関わっていく大きなきっかけになったと感じています。

選挙が終わって少し休憩して、俯瞰的に現状を把握したら、また直ぐに始めましょう！

私は平和の歩みが続けます。皆さんと共に進んでいきたいです。愛の発酵革命を進めていきましよう！どうぞよろしくお願いします。



ホーミタクエオヤシン
<http://www.7gwalk.org>

続いては

- ① 伊勢に移られた元岡本の愛農人のオーナー 吉田さんからの伊勢だより⑩
- ② 東北の震災後たびたびいわき市を訪れ地元の方々と交流を続けているあがり編みの新田 恭子さんからの最近のニュース
- ③ 6月の中健次郎先生の六甲山合宿に参加した松尾圭子さんと娘のさちさんからの文章
- ④ 火曜午後の親子ヨガと金曜夜のヨガの講師永見静香さんからはクラスの案内

日頃、自宅近くの朝熊山(あさまやま)のふもとや五十鈴川のほとりを散策しながら、四季の変化を身近に感じています。子供のころ、親しんでいた風景と似たような中に身をゆだねていると、早春賦「おぼろ月夜」夏は来ぬ「四季の雨」などの季節に応じた唱歌のメロディーが浮かび、懐かしさがこみあげてきます。

今年も、梅の香りやウグイスの鳴き声を感じていたと思っていたら、早いもので、ほのかな香りを漂わせるヤマユリが咲き、セミが鳴き、トンボが飛び交う夏の最盛期を迎えました。



伊勢へ移住後、機会あるごとに、朝熊山(標高約555m)の展望台から背後の神宮の森や前面の伊勢・鳥羽市街地をはじめ、眼下の神宮神田、神宮御園、神宮御塩殿、遠く伊勢三山の麓に広がる田園地帯、伊勢湾を挟んだ伊良湖岬など、360度の展望を目にしてみました。

その度に、日本書紀に記載されている伊勢の国は、常世(とこよ)の波の重浪(しきなみ)よする国なり、傍国(かたくに)のうまし国なり」との一節を思い浮かべ、実感を新たにしてみました。(常世:理想郷、傍国:片方が山で一方が海に面した所、うまし国:景観が美しく食べ物のおいしい所)

奈良時代の修験道者によって開山された朝熊山には、平安時代に真言宗の開祖 空海によって、金剛證寺(こんこうしょうじ)が建立されていて、現在は臨済宗の別格本山と位置づけられています。金剛證寺のご本尊は虚空蔵菩薩(こくうざうぼさ)ですが、天照大御神も一緒に祭られています。自然崇拜とアニミズムを基盤として、自然と共生することで、八百万の神を敬う「神仏習合」の思想が体现されています。

このため、江戸時代には、金剛證寺は伊勢神宮の鬼門を守る奥の院とも呼ばれ、伊勢音頭にも伊勢に参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参り」とうたわれているほどの賑わいを見せていたそうです。

伊勢では、伊勢神宮とのかかわりで多くのことを学びました。2013年には、20年に一度、正殿、装束、神宝すべてを新調する第62回式年遷宮が行われました。正殿の建て替えでは15000本のご用材が、自給自足で調達されたそうです。樹齢300年以上の木曽ヒノキの伐採から、ご用材を神宮へ運ぶお木曳などの儀式を見学して、建築技術を継承しながら、植樹・伐採・木材加工・建築と、永遠の循環を繰り返す「木の文化」の真髄を垣間見ることができました。

一連の儀式を見て、人生80年を、20年枚の4段階(誕生期・成長期・成熟期・衰退期)とした、それぞれのステージでの生き方及び人間の生老病死と重ね合わせ、多くの示唆を得ました。各ステージでは、四季の変化のように、前の季節の余韻

を残しながら、最盛期を迎え、次の季節の予兆を感じさせながら、変化しつづける中では、あらかじめ、次のステージの到来を想定して、気力・体力・知力などの面から先手、先手と変化に対応した日常生活を心がけることの大切さを学びました。

また、金剛證寺の境内を散策しながら、私たちの世代では考えられなかった不祥事が多発している世相を憂い、人生をよりよく生きるための宗教や道徳教育の復活の必要性を感じさせられました。仏教の「知るを知る」「お互いさま」がたじけないなどの教示は人生のバックボーンを支えるよりどころとなるのではないのでしょうか。

同時に、私自身、すでに、衰退期を迎えているため、今までの体験や経験を活かして、次に誕生期を迎える人たちに何ができるかを考える良い機会となりました。

伊勢神宮(外宮)では、1500年間毎日欠かすことなく「日毎朝夕大御饗祭」がとり行われ、古式に乗った神饌が調理されています。食材となるお米は、神宮神田で、100種類に及ぶ野菜・果物は、神宮御園で、塩は、御塩殿で、また、魚介類・海藻・四つ足以外の食肉は周辺の「ご料地」から、地産地消・自給自足で調達されています。生活の基盤となる農林漁業などの第一次産業は、単に経済の対象としてではなく、すべての産業の土台です。そして、神宮の神饌は、生命維持産業として、循環型自給社会を形成する、地方創生のモデルといえるでしょう。

2004年12月、米国の民間組織が、20年後

のあるべき社会像を想定し、自国が引き続き発展・成長するための道筋を示した「国家イノベーション・イニシヤティブ」(パルミサーノ・レポート)を公表しました。これは、2003年9月からサミュエル・パル美佐一の(当時)同協会長を中心に産官学の有識者400人の総力を結集してまとめられたものです。

米国では、20年ごとに、有識者が国家の政策・方針・戦略策定に反映させるレポートを公表しています。20年後の社会像を実現するために、格差・環境・エネルギー・社会保障などの社会問題を克服しながら、「イノベーション」をキーワードに、人材育成・投資・インフラ整備の3つの視点から、新しい仕組み、アイデア、知恵を創造して、社会変化を促す意欲的なものでした。

「イノベーション」とは、ヨーゼフ・シュンペーター(オーストリアの経済学者)が経済発展論の中心課題で提唱した言葉です。本来の主旨は、立ちほだかる社会的課題に対して、先端技術を取り入れた新しい物の見方や視点から社会的に意義のある価値を創造して、爆発的社会変化を呼び込むことと定義されています。

日本では、「イノベーション」は技術革新と翻訳され定着してしまつたため、本来の主旨が十分伝わらず、もっぱら、技術開発に焦点が当てられ、いわゆる良い品質のモノを作れば、販路・お客様は後からついてくるとの目先の生産指向の側面のみが助長されてしまいました。このため、現状の人口減少・少子高齢化などの社会問題をはじめ、文化・歴史・国民性まで視野に入れた幅広い観点から、

技術を手段として、あるべき社会像を目指すとの、マーケティング指向面からの目的が十分浸透しませんでした。

日本の半導体メーカーや家電メーカーなどの目を覆うばかりの凋落は、技術偏重が招いた結果だけでなく、失われた20年の象徴として、社会の停滞まで招いてしまいました。また、2009年東京オリンピック騒動も、エコでコンパクトなオリンピックを開催するとの目的が、いつの間にか片隅に押しやられ、施設などの箱モノが独り歩きして迷走するなど、膨大な費用損失を発生させました。これらの事例は、あるべき姿からたどるべき道筋を考える発想の転換が、日本人にとって、いまだに、至難の業であることを物語っています。

人類史上で、これまで、「イノベーション」がもたらした社会変化は、狩猟採取時代に火を発明して、定住生活を始めた新石器革命、農業技術を背景にした農業革命、蒸気機関や自動車・家電などの技術に支えられた産業革命の時代を経て、現在はコンピューター・インターネットなどのIT(情報・通信)、AI(人工知能)、ロボットなどの先端技術をもとにした情報革命(第4次産業革命)の時代を迎えているといわれています。

まことに小さな国が、開花期を迎えようとしている。「との一節から始まる司馬遼太郎の坂の上の雲」の時代を近代日本の誕生期とすれば、現代は成長期、成熟期を経て、下り坂の衰退期にさしかかっているといえます。このため、今までのように、アジアの先進国、GDP世界第三位の経済大国

として、夢よもう一度」の成長・発展は望めません。しかし、成熟期を経たからこそ、モノ作りでの技術・品質に支えられた産業基盤やインフラ設備などがすでに蓄積されています。

その上、足元には観光資源や教育分野での新しい雇用機会創出のための宝の山が眠っています。現場から、IT・AIなどの先端技術を活用しながら、人・組織・社会など、あらゆる分野での効率化を図ることで、結果的に希望の持てる持続可能な社会は、目的さえはき違えなければ、手の届くところまで迫ってきているのではないのでしょうか。

「海を編む、美を編む」
〜いわき市との交流、続いています〜

新田 恭子

去年の秋、2015年十一月にシャンティすぽとさんで神戸での初個展をさせていただいてからもうすぐ一年になります。多くの方に作品の展示を見ていただき、フリースタイルあばり編み」のワークショップにも参加していただきました。福島県いわき市で展覧会を開催させていただいた時に私が見聞きしてきたことを通して、いろいろな方と交流できてとても有意義な時間を過ごせました。あらためて感謝いたします。

おかげさまで、福島県いわき市とのご縁は今もずっと続いております。今年10月15日から29日まで京都のギャラリーギャラリーで発表する新作は、震災後、福島県の海岸に残されていた糸のご提供を受けて制作しています。もし「興味」

ございましたら、どうぞ私のウェブサイトをnitta-knotter.comに個展の情報などを載せておきますので、ご覧ください。

宝塚市に住んでいる私が、はじめて福島県いわき市に足を運んだのは2013年秋のことでした。その後はいわき市暮らしの伝承郷での展覧会の下見のために2014年秋に一回、2015年春には展覧会準備とオープニング行事出席のためと撤収のために2回、いわき市に滞在しました。その間の2013年秋から2014年秋にかけての変化がとても印象に残っています。

2013年秋には放射能の除染がまだ進んでおらず、いわき市内のスーパーマーケットにはペットボトル入りの水が山のように積まれ、他県産の野菜ばかりが並んでいました。次に約1年ぶりに2014年秋に訪問した時には、野菜売り場にいわき市産野菜のコーナーができていました。その一方で、ショッピングモールの一角などにつくられた屋内のこどもの遊び場は、いつもたくさんのおとも達とつきそいの大人達でにぎわっていました。

2011年以降、いわき市には、日本中各地から様々な目的で多様な人々が集まってきています。原発事故による帰宅困難地域の仮設住宅なども多数あり、原発で働く人々も多く住んでいるので、人口が増え、幹線道路の車の渋滞も日常茶飯事なのだそうです。出張で来る人も多いようで、駅前のホテルの部屋数が増えても、なかなか予約が取りづらい状況が続いています。夜に赤提灯が灯る飲食店も、活況のようでした。

今年、2016年になってから、4回いわき市を訪問しました。檜葉町の仮設住宅の集会所で手芸サークルに講師を派遣する活動をしていたNPO法人「みんなの工房」と共同で、やはり編みでグリーンカーテン用のネットを編んで檜葉町の公共施設に寄贈しようというプロジェクトを実行するためです。

檜葉町が帰宅困難地域の指定を今年3月に解除されたのにもない、仮設住宅が今年3月に解散され、手芸サークルも休止するため、最後の活動となりました。(写真1)仮設住宅の集会所で、皆で力を合わせてネットを作っています。



手芸サークルに参加されている方々は、1月に練習すると、すぐにはばり編みを習得されました。2月にそれぞれ10枚くらいモチーフを編んでくるようにお願いして、3月にモチーフを編みつないで(写真2)、立派なネットが数枚、完成しました。

手芸サークル参加者の皆さんが、最後に「みんなでお茶にすべ(しましよう)」と集会所で開いてくださったお茶のおもてなしにとても心が温まりました。これから各々違う場所での生活がはじまる

ので、お互いの健康と幸福を祈りながらお別れました。ネットは来年春に寄贈するまで、いわき市内でお披露目中です(写真2)。

通うたびに、福島県いわき市の魅力の虜になっています。原発事故の収束にはまだまだ時間がかかることでしょうか。これからも福島県の状況に注視しながら、フリースタイル「やはり編み」作品発表と普及活動を通して、社会とつながってゆきたいと思えます。

(写真2)左は皆で作ったネットです。右は拙作「ひびきあう 小名浜―新地町―」、賛助展示させていただきました。いわき市暮らしの伝承郷ロビーにて。



中健次郎六甲山気功合宿に参加して

綾部市 松尾圭子 & 松尾さち (小6)

一日目の夜でしたでしょうか。参加者が持参した本にサインをしていた時、ひとりひとりの姿を見て、メッセージをしたためてくださる中先生が、次に並んだ私の顔にぱつと視線をあわせ、一瞬「うん」と考えられた後、さっとしたためた文字。それは「真我に生きる」でした。ドキッとしました。真我。エゴを超えた透明な存在。自分ではそのようにとらえています。

仕事でもあるヨガを通して、私は、(身体意識として)ハラの底にあるように感じる「真我」を常に意識していました。「ここにいるよ」とハラの底から小さな声でよびかけられていたような気がして、それでも、なぜかスルーして、そしたら、意識せざるをえないような経験がまたやってくるという、二十十年はその繰り返し。

たくさんの欲をもてあませば、ともなう嫌悪感にさいなまれ、真我はどんどん離れていくけれど、同時に憧れにも似た気持ちはふくらんでいくばかり。雑念とのあいままでうしろめたさが尾をひき、とても自然ではいられない、そのピークにさしかかったときの先生からの一言でした。

見抜かれた、と思えました(笑)。でもおもしろいことに、先生のそのメッセージをいただいたあとから、少し力がぬげ、ラクになり、自分の内側と向き合う時間がはじまったのです。私にとつては、ほぼはじめての

気功。龍氣は基本中の基本なのですね。ヨーガでの合掌や山のポーズ、蓮華座、金剛座

…のような位置づけなのでしょう。

すべてのはじまりである、龍氣を、さまざま動きの前にならずにおこなってくださるのでこれだけは、覚えることができました。



何度もおこなううちに、自分のまわりの空間と体内の気が、連動しているように感じられます。ていねいにすればするほど、相似形のようなものが体のうちとそとにつくられていく感じがするのです。

ふわっとした、見えないけれどとてもきめ細かな小麦粉を練るように氣を練るというイメージを抱きながら、外を凝縮したものが、からだの内側につくられていく…

この感じ方が気功として正しいのかどうかわかりませんが、このプロセスがなんとも心地よく感じられました。ところで、一緒に連れていった小6の娘。みなさんにあなたかく受け入れられ、かわいがっていただいてこの場をかりて、お礼申し上げます。ありがとうございました。

夕ご飯のスープを、まだ合宿の空気になじめないで、右往左往している娘に、さりげなくいれてくれたお兄ちゃん(お母さんと参加なさった、剣道をしているという19歳?くらいの方)ありがとう。あなたが、最後に質問したことは、一緒にきている娘に、将来ふつと頭にながぶであろう疑問の種をまいてくれた大切な視点でした。

その娘も、短く感想を書きました。最後に付け加えさせていただいて、終わりにいたします。

「気功感想文」 松尾七希

私は、学校の「詩」の宿題をもって、お母さんと気功合宿に行きました。本当は、習っているクラブのバレーボールのことを書くこととおもっていたけれど、気功しているへやの、しずかなところで立っていると、もつと「の」気持ちいい感じがかきたいとおもったので、(ずつと雨がふっていたので)「しずく」という詩を書きました。

お母さんは「木の舞」によく行っています。そこでも、詩をかくとポンポン思いついてしずかなかんじの詩ができます。だから、気功もわの舞も、その時は気づかないけれど、何か「わからなけれど」あるんじゃないかなあと思いました。

「しずく」

ポタッ ポロロツ
きれいなしずく

はつぱが
きれい

こころも
きれい

ポタッ ポロロツ

くやしい
しずく

わきあがる感情
ポロツと
しずく



pixta.jp - 8455341

隔週火曜日午後「おやこヨガ」、
毎週金曜日19時15分からの

「ファンクエイジングヨガ」講師
「静ヨガ」代表 ヨーガセラピスト

永見 静香

おやこヨガは昨年夏に開講しました。ヨガは産後の身体に負担をかけず、ゆったりとした動きと

呼吸を進めていきます。産後特有のイライラした気持ちや、気分の高まりを抑えてくれます。もちろん骨盤調整やダイエットにも効果的！さらに、小さな赤ちゃんと一緒にヨガができるので、授乳やおむつ替えも自由です。外出の練習やママ友作り、情報交換の出来る場所にもなっています。

お子さんが産まれて初めての習い事としても人気があり、ヨガを通じて親子のコミュニケーション能力を高め、「ヨガセラピー」でラクで楽しい子育てが出来るようになったと生徒さんから嬉しいお声もいただいています。

お子さんの対象年齢は3カ月〜2歳くらいで、小さなときだからこそできる、言葉では現せない、表情や動作、肌の触れ合い、心の繋がりで貴重な経験を体感してみてください。

1年通ってくださいる親子さんで、毎回ニコに來るのが楽しみです。子供もなぜか落ち着いて泣かないし、常に笑顔でいてくれます。夫婦関係の悩みも相談できてスッキリしました。」と言ってください、指導している私が一番嬉しいです。



そして夜のアンチエイジングヨガですが、こちらは1昨年5月に開講し、いまでは会員数も増えて和気あいあいとした楽しいレッスンをさせていただいています。

肩こりや腰痛、骨盤調整やダイエットなど、参加

者さんのお悩みやニーズを伺いながら毎月違ったテーマでレッスンの内容を変えています。8月は100円均一にもあるような健康グッズを使って「コロヨガ」をしました。

頭の先から足の先まで、コロコロで入念に刺激を与え、リンパを効率良く流す事ができるので、冷えやむくみ、疲れが気になる方、引き締めやダイエットにもオススメです。

親子ヨガ「アンチエイジングヨガ」ともに最大6名の少人数制のレッスンです。だからこそ、一人一人を大切にレッスンを続けています。

【静ヨガ】会員特典として、メール限定で心と身体のお悩みや相談も受け付けております。

サ・シャンティさんでレッスンをさせてもらうようになって感じるのは、出逢う方々、そして毎回レッスンに通ってくださいる方々がとても穏やかだということなんです。

何かしら身体に不調はお持ちの方が多くですが、その不調と上手に付き合われており、ヨガで身体を整え、ニコろを整えておられる姿をみると、私も自信も生徒さんから教えていただくことが多く、いつも勉強の毎日です。

生徒さんや周りの方々に支えられ、助けられてニコまで来ています。本当に感謝しています。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

編集後記

この夏は関西ではカンカン照りが続きました。なのに、夏台風が関東から北海道に行って大雨や浸水を引き起こしています。どうぞ、万遍なく適度に降らせてくださいと祈りたくりますが、好きだけ水や電気を使う王侯貴族のような生活をしていることへの警告かとも思えます。

畑やベランダではキウリやミニトマト、オクラなどが実っています。こういう畑の楽しみも奪われてまだ終息しない福島原発の近くで5年も暮らしている方々もあります。各地でこの夏も子供のための保養キャンプが行われました。

神戸と明石で毎年行われているたこ焼きキャンプの詳しい報告が小野洋さんから来ました。

東北の石巻で311直後からオープンジャパンのカーシェアリング部門を担当している吉澤武彦さんたちは、熊本からのSOSにすぐ対応、熊本被災地の人々に喜ばれているようです。

事務所の入り口のところに、ある朝クワガタが歩いていました。孫もないし、近所にも子供が



少ないので、昔少年の人がキウリを切ったりしてエサをやりだしました。元気にしていますが、近くのお宮さんの森に放したほうがいいのかとも思っています。お宮さんの森と木々のお陰で季節の移り変わりを感ずることが出来ます。

セミの鳴き声もミンミンにツクツクボウシが混じりはじめています。

清水和子